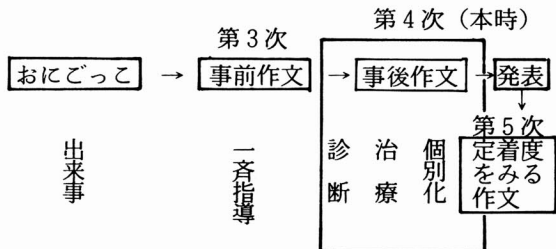


文の中で漢字や句読点、かぎを正しく使うことができるようにする。

- ウ 指導計画 (総時数10時間)
- 第1次 ○ 書こうとする事柄を見つけて話し合う。……………(1)
 - 第2次 ○ 「どんぐりひろい」を読み、よい表現の方法を知る……………(2)
 - 第3次 ○ 昨日の体育の時間にした「おにごっこ」のことを作文に書く。……………(1)
 - 第4次 ○ 「おにごっこ」の作文を読み手にわかるように書き直す。……………本時(1)
 - 発表し合って、作文の書き方をまとめる。……………(1)
 - 第5次 ○ 昨日のことを書く……(1)
 - 読み直して読み手にわかるように書き直す。……(1)
 - 単元のまとめをする…(2)



③ 検証授業 5/10

ア 本時の目標

事前作文に書いた「おにごっこ」の作文を読み手に様子がわかるように書き直すことができる。

イ 指導過程

学習活動・内容	時間	指導上の留意点
1.本時のねらいを知る。	2 (分)	○ 読み手にわかるように作文を書き直すことを知らせる。
2.学習の方法を知る。	3	○ よくわかるように書くには5Wと様

○ カードを使って作文を書き直す。		子や、気持ちを書くことを確認する。
3 作文を書き直す ○ 事前作文を読む。 ○ カードを読みながら書く。	30	○ 事前の作文を配る。1回読んだところでカードを配る。 ○ カードを読ませ作文の欠陥に気付かせる。 ○ カードの問いに答えるように書かせる。 ○ 机間巡視しながら一人一人に指導する。 ○ カードに書いてないことでも思い出したら書き足してもよいことを話す。
○ カードに書き終わったら清書用紙に初めから書き直す。		
4 よくわかるように書けたかどうか確かめる。 ○ 前の作文と比べる。	5	○ 「前の作文とどう変わったか」長くなったことやくわしくなったことに気付かせる。
5 先生に読んでもらってから提出する。	4	○ ほめてやり学習した喜びを持たせる。
6 次時の予告を聞く。	1	○ 発表会を知らせる。

(2) 検証と考察

① 検証の観点

- ア 事前・事後・定着度の三段階の作文について、仮説に照らし、その変容を見る。
- イ 個人別にその変容をとらえて、仮説の有効性を見る。
- ウ 検証授業の評価は作文の内容分析の結果から判断する。
- エ 作文の内容分析は下記の五つの観点から分析し検討する。
 - ・ 出来事の順序性と内容 (3段階評価)
 - ・ 様子や気持ちを表す言葉の数。
 - ・ 5Wがおさえて書いてあるか。